

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.12

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

三陸復興推進機構ワークショップを開催しました

平成24年11月12日と29日の二日間、岩手大学三陸復興推進機構は学内の教職員を対象としたワークショップを開催しました。

このワークショップは、現在機構内にある教育・生活・産業支援、地域防災研究などの各部門に共通する話題を取り上げ、意見交換などを通じて部門間の連携を促進し、復興支援活動を更に充実させるために行われたものです。今回は両日とも「被災地のコミュニティ」をテーマとして、機構各部門所属の教職員等延べ約40名が参加して話題提供や意見交換などが行われました。

話題提供では、被災地域の町内会長への聞き取り調査から見てきた被災町内会の課題や、地域コミュニティ再建のための住民主体による花壇づくりの支援、被災者の心のケア、フリーペーパーなどを生かしたコミュニティ再建支援などの話題が取り上げられ、参加者は熱心に耳を傾けるとともに活発な意見交換を行っていました。

機構長の岩淵明理事・副学長は、「所属部門以外の部門の活動内容を知ることが、復興支援活動の充実に有効なことであり、今回のようなワークショップは今後も継続して開催していきたい」と話しました。



ワークショップの様子

大槌町にて文化財講座を開催しました

平成24年12月1日と2日の二日間、三陸復興推進機構生活支援部門の文化財保護支援班は、大槌町にて文化財講座を開催しました。今回の講座は、震災後の大槌町内で実施した文化財調査の成果などを中心に「大槌町の文化財」について考える講座として、岩手大学、大槌町教育委員会、いわて高等教育コンソーシアム、岩手歴史民俗ネットワークの主催で行ったもので、地元住民の方や研究者など二日間で延べ約50名が参加しました。

岩手大学からは、文化財保護支援班長の佐藤由紀男教育学部教授が「大槌町における文化財の確認調査」と題して、平成23年9月から翌年1月にかけて大槌町内で実施した文化財の被災状況調査の内容と、このような文化財調査の意義について講演を行いました。

このほか、三陸地域にゆかりの深い江戸時代の豪商・前川家に関する講演や、町内に現存する史料の活用に関する講演が行われました。講演終了後には、講演者とフロアとの間で活発な質疑応答が行われ、二日間にわたって行われた今回の講座は盛況のうちに幕を閉じました。



講演を行う
佐藤由紀男教授

全国生涯学習ネットワークフォーラム2012岩手分科会が開催されました

平成24年11月17日と18日の二日間、岩手大学を会場に全国生涯学習ネットワークフォーラム2012岩手分科会が開催されました。

フォーラムは、藤井克己岩手大学長と森口泰孝文部科学事務次官からの主催校・主催者挨拶に続き、滝沢村立一本木小学校の児童のみなさんによる合唱と詩の朗読で開幕し、岩手県平泉町にある世界遺産の一つ毛越寺執事長である藤里明久氏による「今を生きる ともに生きる」と題した基調講演、岩手県内で震災復興に携わる学生や団体の取組報告・パネルディスカッション、行政や教育機関、NPOなど立場の異なる人々が「復興まちづくり」や「学校防災計画」などのテーマについて解決策を探るワークショップ「熟議」などが二日間にわたって行われました。

岩手大学の取組報告では、岩手県陸前高田市をPRするフリーペーパー『いいことマップ』を発行する学生団体「岩大E_code」代表の椎名雄資さん（人文社会科学部4年）が編集を進める上での苦労や喜びを発表し、パネル

ディスカッションでは、新妻二男教育学部教授がコーディネーターとして、廣田純一農学部教授がパネラーとして参加しました。廣田教授は発表中、「被災地の人々は立場によってそれぞれの言い分はあるだろうが、互いの立場を理解し、協力し合うべき」と訴えました。

今回のネットワークフォーラムは、震災で経験した悲しみや苦しみを振り返るだけでなく、今後、参加者一人ひとりがどのように震災に向き合い活動してゆくのかを、真剣に考え語り合う貴重な機会となりました。



1



2

1 主催校挨拶を述べる
藤井克己岩手大学長

2 主催者挨拶を述べる
森口泰孝文部科学事務次官



3



4



5

3 取組報告を行う「岩大E_code」代表の椎名雄資さん

4 パネルディスカッションで意見を述べる廣田純一農学部教授

5 熟議の様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

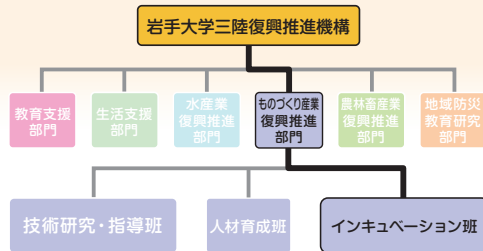
岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、女性起業家の支援活動を実施しているインキュベーション班の取り組みの一例をご紹介します。

女性新規事業化支援セミナーの実施について

岩手大学三陸復興推進機構 ものづくり産業復興推進部門 インキュベーション班
今井 潤 (地域連携推進センター 准教授)

インキュベーション班では、今年の2月から、様々な機関と連携して、女性起業家の支援活動を実施しています。なぜ女性起業家の支援を実施しているかというと、昨今の経済の行き詰まりを打破するには、女性の力が不可欠という側面があります。最近はこの観点から、様々な補助金や支援制度が作られています。しかしもっと大きな問題として、被災地において、女性が働ける職場の減少があります。男性は比較的簡単に出張に行ける場合が多いですが、様々な事情で地元を離れられないことが多い女性の職場の確保は、被災地の復旧・復興には不可欠な課題です。十分に女性の職場を確保できないと、被災地からの人口流出が更に促進されることが予想されます。

今年度、被災地を中心に内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業が実施されており、福島、宮城、岩手を中心に600名の新規起業家を育てる新規創業支援活動を行っています。新規創業を予定している方々はこの事業により資金を得て、女性起業家も多く、ビジネスプランのブラッシュアップや、様々な勉強をしています。我々は、これらの団体を支援する一般社団法人 MAKOTO や、岩手県商工労働観光部経営支援課が主管する「いわて起業家サポートネットワーク」などと連携して、情報共有や発信を行っています。創業希望者は、来年3月までに起業することが実質上義務化されている補助事業で



あるため、4月以降に更に積極的な支援を行っていく必要があると思います。

そのような支援の一環として、インキュベーション班では、女性新規事業化支援セミナーを実施しています。このセミナーは、大学のサテライトおよびエクステンションセンターがある釜石市、久慈市、宮古市で3回（盛岡市産学官連携研究センターのMIU Caféとのコラボを含めると4回）、開催しています。セミナーでは、講演者も参加者も原則女性に限定させて頂いています。男性はスタッフのみです。

女子会のような雰囲気を作ることにより、型にとらわれない自由な意見交換ができるようにしています。セミナーでの一方的な話だけではなく、終了後の自由なおしゃべりの時間も大切にしています。

是非、起業マインドの高い女性のご参加をお待ちしています。また、女性ならではのビジネスプランを支援していただける男性サポーターも、支援スタッフとして募集しています。年度内にまたセミナーを開催する予定にしていますので、是非その節はご参加ください。



MIUで平成24年2月に実施したセミナーの様子

釜石サテライトだより

12月に入って、釜石でも木々の葉はすっかり落ちて、冬らしい寒々とした山並みになってきました。すでに、秋サケの盛漁期なのですが、さっぱり水揚げが増えておらず、今年の水産業も厳しい冬を迎えそうです。

最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

●水産加工業車座研究会(意見交換会)の開催について

当研究会は今回で2回目の開催であり、今回は岩手大学と連携している東京海洋大学及び北里大学と合同で、最新の冷凍・冷蔵加工技術の現状を紹介するとともに、大学の有する具体的な研究開発のシーズを説明し、水産加工業者とのマッチングによる新たな商品開発などに繋げることで、震災からの早急な立ち直りを図ることを目的として企画しました。



車座研究会の様子

秋鮭やアワビの最盛期のため、水産加工業は多忙な時期でありましたが、50名もの方々に出席して頂き、会場は満杯となりました。

岩手大学からは、「ハーブ干物の商品化への取り組み」、東京海洋大学からは、「水産物の冷凍冷蔵技術について」や「水産加工の知的財産とその活用法」が紹介されました。東京海洋大学や北里大学には専

門家が多いことから、水産加工業の課題解決に向けて、3大学が連携して共同研究を進めていきますので、地域の皆様には3大学の研究シーズを積極的に活用して頂きたいと思っております。

●サケの遺伝的資源管理へ向けた取り組みについて

三陸復興プロジェクト事業の一環として、サケの遺伝特性調査が行われています。釜石サテライトやエクステンションセンターもこの調査に協力しています。

これまでに沿岸ふ化場 10ヶ所と北上川水系ふ化場 2ヶ所で採捕されたサケ約3,000尾から、遺伝(DNA)分析のために標本を採取しました。

遺伝分析により回帰サケの身元調べなどの系群が回帰資源に貢献しているかなどのデータを集め、どのように三陸のサケ資源を管理すればよいか今後検討していきます。



織笠川でのサケ標本の採取の様子

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 釜石サテライト

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階
TEL:0193-22-4420/0193-22-4426
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:<http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>

Information

第3回高度ものづくり人材養成講座 in 釜石 ービジネスプランニングプログラムー

岩手大学三陸復興推進機構では、岩手大学工学部教員と日本技術士会経営工学部会の方々を講師に、釜石地域におけるものづくり人材の養成講座を開催します。事業経営、事業運営に関わっている方、関心をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

開催日：2013年1月18日(金)・19日(土) 9:00-16:00(両日とも)
会場：釜石市教育センター5階(釜石市鈴子町15-2)
参加費：無料
主催：岩手大学三陸復興推進機構
協力：財団法人釜石・大槌地域産業育成センター、岩手県技術士会、公益財団法人日本技術士会
内容やお申し込み方法など、詳細は釜石サテライトホームページ <http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/> をご覧ください。

お問い合わせ 岩手大学釜石サテライト(釜石市教育センター5階) TEL 0193-22-4420

編集後記

毎月発行している本紙もついに12号を発行することとなりました。1年間発行を続けて来られたのも、全国の読者の皆さまのおかげです。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

12月に入り、一気に盛岡は冷え込み始めました。雪も降り積もり、真っ白になったキャンパスに、東北の長い冬が始まったことを感じます。雪積もる季節も寒さに負けず、岩手大学は、震災からの復興に全力で取り組んでまいります。